

**令和5年度
全国簿記教育研究協議会
(令和6年3月9日)**

2級

2級 96回（6月実施）

合格率 35.3%

**平均合格率
（過去5年）**

39.0%
(34.5%–42.5%)

96回

c. かねて計上していた現金過不足勘定の借方残高 ￥13,000 について、原因を調査していたが、決算日に、交通費 ￥12,000 の記入漏れが判明した。なお、残額は原因が不明のため、雑益または雑損として処理した。

(1) 鳥取商店（決算年／回 12月31日）における次の勘定の（①）に入る勘定科目と（②）に入る金額を記入しなさい。ただし、利息は毎年同じ金額を4月末日と10月末日に経過した6か月分を現金で受け取っている。

未 収 利 息		受 取 利 息	
1/1 前期繰越 12,800	1/1 (①) 12,800	1/1 () 12,800	4/30 現 金 ()
12/31 受取利息 ()	12/31 次期繰越 ()	12/31 損 益 (②)	10/31 現 金 ()
()	()	△	12/31 未収利息 ()
		()	()

a. 下線部 _____ を英語表記にした場合に当てはまる語を選び、その番号を記入しなさい。

1. balance sheet 2. moving average method 3. first-in first-out method

2級 97回（1月実施）

合格率 52.2%

**平均合格率
（過去5年）**

51.0%
(44.7%–57.8%)

97回 全般

<内容>

- 1 仕訳
- 2 個人企業の計算・用語・本支店
- 3 伝票
- 4 帳簿組織
- 5 決算
- 6 株式会社

97回 1 仕訳

<内容>

a. 電子記録債権の発生記録に関する出題

昨年度（令和4年度）の研究協議会において

「令和3年度研究協議会」では1級会計の出題範囲案としていたが、商品売買に関する債権・債務と同様に扱うことが適当であるという判断で2級の範囲とする。

<参考資料>

◆**約束手形**について **2026年度末までに廃止**

スピード感に欠ける手形決済、政府目標は26年までの廃止「何か月も資金凍結」「アンフェアな慣習」

2/26(月) 7:12 配信  13     

読売新聞 

約束手形の決済期限を60日とする下請法の運用見直し案が月内にも示される。現金振り込みが定着する欧米に比べると決済にかかる時間は長く、国内取引はスピード感に欠ける。2026年までに約束手形の廃止を掲げる政府の目標に対し、現場への浸透も十分だとはいえない。

(読売新聞オンラインより)
(2024/2/26)

<参考資料>（全国銀行協会より）

◆手形交換高

平成30年（2018年）→ 令和4年（2022年）
約224兆円 **約 60兆円**

◆でんさいネット取扱量

平成30年（2018年）→ 令和4年（2022年）
約 18兆円 **約 33兆円**

<注意>

約束手形の出題は今後も継続する

変更がある場合は必ず事前に通知


<参考資料>

◆小切手について 2026年度末までに完全電子化

ホーム > ニュース > 経済

小切手の発行手数料、地銀3行が10倍に値上げ...中小企業戸惑い「紙を廃止したいのでしょう」

2022/11/04 19:05

 この記事をスクラップする



千葉銀行など千葉県内の地銀3行は2～4日、小切手（1冊50枚）の発行手数料を現在の10倍にあたる1万1000円に値上げする。政府は昨年6月、閣議決定した「成長戦略実行計画」で小切手の電子化や2026年をめどにした約束手形の廃止を掲げており、料金改定とともにインターネットバンキングなどの活用を促す狙いがある。だが、小切手を使い慣れた業界や中小企業からは戸惑いの声が上がっている。（岡田遼介）

（読売新聞オンラインより）
（2022/11/4）

97回 2 計算・用語・本支店

<内容>

配点の変更

(96回) 4点× 5問

(97回) 2点× 10問

<注意>

今後は2点配点に変更するのではなく、
問題によりそのつど配点は検討する。

97回 2(1) 計算問題

<内容>

(1) 建物の減価償却（間接法）についての出題

(1) 令和5年/2月3/日における栃木商店（決算年/回 /2月3/日）の次の建物台帳と総勘定元帳（一部）によって（ア）から（エ）の金額を答えなさい。

建 物 台 帳							
所 在 地			栃木県栃木市片柳町5-1-30		耐用年数	22 年	
用 途			店 舗		償却方法	定額法	
登録番号			1501		残存価額	零 (0)	
日 付			摘 要	取得価額	償 却 額	残 高	備 考
年	月	日					
2	/	/	小切手払い	39,600,000		39,600,000	
	12	31	減価償却 (1期目)		1,800,000	37,800,000	
3	12	31	減価償却 (2期目)		()	(7)	
4	12	31	減価償却 (3期目)		()	()	
5	12	31	減価償却 (4期目)		()	()	

(97回検定)

97回 2(1) 計算問題

<内容>

(1) 建物の減価償却（間接法）についての出題範囲

カ. その他の債権・債務	クレジット取引 電子記録債権・債務		
キ. 固定資産 取得	売却	除却・建設仮勘定・無形固定資産 リース会計(借り手の処理)	
ア. 決算整理 商品に関する勘定の整理 貸倒れの見積もり		商品評価損・棚卸減耗損	
固定資産の減価償却(定額法) (直接法)	(定率法) (間接法)	(生産高比例法)	
	有価証券の評価 収益・費用の繰り延べと見越し 消耗品の処理		

97回 2(1) 計算問題

<内容>

(1) 建物の減価償却（間接法）についての出題

建 物 台 帳							
所 在 地			栃木県栃木市片柳町5-1-30		耐用年数	22 年	
用 途			店 舗		償却方法	定額法	
登録番号			1501		残存価額	零 (0)	
日	付		摘 要	取得価額	償 却 額	残 高	備 考
年	月	日					
2	/	/	小切手払い	39,600,000		39,600,000	
	12	31	減価償却（1期目）		1,800,000	37,800,000	
3	12	31	減価償却（2期目）		()	(ア)	
4	12	31	減価償却（3期目）		()	()	
5	12	31	減価償却（4期目）		()	()	

令和5年/2月31日における総勘定元帳（一部）

建 物	
1/1 前期繰越 ()	12/31 次期繰越 (イ)

(97回検定)

97回 2(3) 本支店

<内容> 資料から合併貸借対照表を作成する出題

(平成30年告示) 学習指導要領 解説

第2 内容とその扱い 2 内容 (4)本支店

「ここでは……適正な**本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併**について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。」

97回 2(3) 本支店

<内容> 資料から合併貸借対照表を作成する出題

- ①本支店会計について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けること。
- ②**本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題**を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応すること。
- ③本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び**財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組む**こと。

97回 2(3) 本支店

<内容> 資料から合併貸借対照表を作成する出題

iv 当期における本支店それぞれの収益総額および費用総額

本店	収益総額	¥19,105,000
----	------	-------------

	費用総額	¥18,304,000
--	------	-------------

支店	収益総額	¥5,891,000
----	------	------------

	費用総額	¥5,746,000 (資料 ii ②の広告料も含まれている)
--	------	---------------------------------

97回 3 伝票

<内容>

いったん掛け取引として処理する方法

売掛金元帳や買掛金元帳の記録から取引先ごとの
売上高や仕入高を容易に知ることができる

会計ソフトウェアでも必要な内容

97回 3 伝票

3 神奈川商店では3伝票制を採用し、仕入・売上の各取引については、代金決済条件にかかわらず、すべて、いったん掛け取引として処理する方法で起票している。よって、

- 1) /月/0日の略式伝票を集計したさいの、仕訳集計表の（ア）から（ウ）に入る金額を計算しなさい。ただし、下記の取引について、必要な伝票に記入したうえで集計すること。
- 2) 下記の仕訳集計表から、総勘定元帳に転記後の普通預金勘定の残高を計算しなさい。ただし、/月9日の普通預金勘定の残高は ¥3,275,200（借方）であった。

取 引

/月/0日 横浜商店に商品 ¥58,000 を売り渡し、代金は現金で受け取った。

〃 日 鎌倉家具店から備品 ¥291,000 を購入し、代金は現金で支払った。

入金伝票		振替伝票（借方）		振替伝票（貸方）	
売掛金	42,600	売掛金	187,000	売 上	187,000
売掛金	56,800	仕 入	269,500	買掛金	269,500
前受金	100,000	広告料	67,400	普通預金	67,400
受取手数料	3,000	買掛金	134,000	普通預金	134,000
売掛金	98,700	普通預金	86,200	売掛金	86,200
() ()		() ()		() ()	

97回 4 帳簿組織

<内容>

証ひょう（小切手・領収証・請求書）を 使用した出題

領 収 証	
No. 0015923	
令和5年1月25日	
千葉商店 御中	
¥17,000 -	
ただし、配達料金として 上記正に領収いたしました。	
船橋運送 千葉県船橋市市場4-5-1 047-422-XXXX	
	

請 求 書		2023年1月20日 No. 230102				
千葉県千葉市中央区松波2-22-48		成田商店				
千葉商店 御中		千葉県成田市松崎 20				
毎度ありがとうございます。 下記の通りご請求申し上げます。		TEL 0476 (26) XXXX				
前回ご請求分	ご入金額	繰越金額	今回お取引金額	今回ご請求金額		
¥ 209,000	¥ 209,000	¥ 0	¥ 391,000	¥ 391,000		
年 月 日	商 品 名	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2022.12.27	A品	400	個	¥ 820	¥ 328,000	
	B品	150	個	¥ 420	¥ 63,000	
	以下余白					

次年度の注意(2級)

**必ず、各都道府県の本部校は
すべての授業を担当されている
先生方へお伝えください**

次年度の注意(2級)

<今年度より継続>

①全般について

「電子記録債権」「電子記録債務」

「クレジット取引」

について2級の出題範囲とする

②大問2の配点について

2点または4点の配点とする

(問題により配点は変更)

次年度の注意(2級)

<今年度より継続>

③本支店・株式会社の出題について
仕訳・計算問題・勘定記入等で出題する

④帳簿組織の出題について
証ひょうを表示した出題は今後継続する

次年度の注意(2級)

<新規>

- ⑤決算の出題について
消耗品の処理について出題する

使用教科書により消耗品勘定と貯蔵品勘定がある
どちらでも正解とするような工夫をして出題する

- ⑥決算の出題について
「電子記録債権」「電子記録債務」
「クレジット取引」の出題はしない